

厚生労働省の「患者調査」によると、2014年の糖尿病患者数は316万6,000人と前回2011年の調査より46万6,000人増えて過去最高となっています。

こうした中で、11月14日の世界糖尿病デーでは、「糖尿病はコントロールできる病気であり、適切な治療を続けていけば合併症は予防できる」と呼びかけています。その合併症とは、「しめじ」と「えのき」。し（神経障害）・め（眼または網膜症）・じ（腎障害）、え（足の壊疽）・の（脳梗塞）・き（虚血性心疾患）です。

私は2015年に糖尿病看護認定看護師となり、西9階循環器病棟にて勤務しています。循環器で糖尿病?と違

和感を覚える方もおられると思いますが、糖尿病は全身の血管にもダメージを与えますので、糖尿病と心疾患、両方を持つ方も多いですよ。

糖尿病を持ちながら自宅で生活されてきた方が入院されてきたとき、その生活スタイルの変化や治療の方針などから一時的に血糖コントロールが乱れることがあります。たとえば今までの自宅の食事より量が少なくて低血糖になったり、検査や治療のために絶食になり低血糖になったり、ステロイドの内服で高血糖になったり。またインスリン持続注入ポンプを使用されていた方が、入院中のみ注射へ切り替えをすることになり血糖が不安定になったり。

そうした方の血糖コントロールを医師と相談しつつ、目の前に迫る心疾患の治療に向き合えるよう、二つの病を持つ生活者としての患者さんの視点を持ち、伴走していただくことが、この病棟での役割だと思っています。そして退院後に2つの慢性疾患を持ちながら生活される方々の、セルフケアを支える存在になりたいと思っています。



お知らせ

新しい外来担当医表が完成いたしました

*完全予約制の診療科へ患者さんをご紹介くださる医療機関は、必ず事前に予約のお申し込みをお願いいたします。

Information

高次脳機能障害科は平成29年1月より新患日が変更になりました

新患日：月・木・金（祝祭日・年末年始を除く）
連絡先：022-717-7751（高次脳機能障害科外来）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131 FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は、地域医療連携センターまでお問い合わせください。
©2017 東北大学病院
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

編集後記

12月はじめにインフルエンザA型に感染してしまいました。11月半ばに予防接種を済ませ、できるだけマスクを着用するようにしてはいたのですが・・・。日頃の睡眠不足と栄養の偏りで免疫が落ちていたように思います。まだまだ寒い日が続きます。栄養をしっかり摂って体力をつけ、冬を乗り切りましょう。（地域医療連携センター 関口 由香）

with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
[With/ウィズ]

vol.40

2017年1月26日発行



イベント情報

第15回東北大学病院市民公開講座を開催しました

Event

2016年11月13日（日）仙台国際センター大ホール・桜会場にて、第15回 東北大学病院市民公開講座「看護の現場をのぞいてみませんか」を開催しました。県内外から多くのお申し込みがあり、当日は368名の方にご来場いただきました。

オープニングでは、看護師有志で構成されている「星陵舞すずめ」によるすずめ踊りの演舞を披露し、活気に満ちた華やかな演舞に会場からは大きな拍手が送られました。

続いて、門間典子看護部長が病院・看護部の紹介や、時代のニーズと共に変化している看護の内容について話しました。

今回の市民公開講座では看護師6名による講演をメインに進行し、講座の一つめは「看護のいろは 診察か

ら入院まで」と題し、外来Iと内科病棟を担当する看護師から、受診当日の流れについてわかりやすく話しました。

続いて、放射線部の看護師が入院後の血管撮影やCT、MRI、PET検査がどのように行われているのかを「検査も治療もこわくない」と題して、検査のポイントや検査中の心構えなどを交え解説しました。最後は、手術を受けることになった場合をテーマに、手術部と外科病棟の看護師による「知っておこう 手術のこと」、また、当センターの看護師が退院後の生活について話しました。

イベントスペースでは、血圧・酸素飽和度測定サービスの他、シミュレーター胸部聴診体験や妊婦体験、アロマハンドマッサージなどの体験コーナーを設け、たくさんの方にご参加いただきました。



次回開催のお知らせ
第16回市民公開講座
「がん治療について(仮)」
日時：6月17日（土）
場所：仙台国際センター
みなさんのご来場をお待ちしております。



凍らせて治す－腎臓がん凍結療法－

当科では2015年12月から腎癌に対する凍結療法(Cyroablation)を施行しています。2011年に「小径腎癌に対する凍結療法」が保険収載されましたが、施行できる施設は限られており、東北では唯一の凍結療法装置となります。手術を希望されない患者さんや手術リスクの高い高齢の小径腎癌の患者さんは、今までは私費での経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)や遠方での凍結療法を施行されていましたが、当院にて保険診療として行えることとなりました。

治療の特徴

外科的手術と比較して低侵襲であること、全身麻酔が必要ないこと、繰り返し治療が施行可能であること、疼痛が少ないことがこの治療の長所です。

CT画像を参照しながら、腎腫瘍に凍結針(17G/直径1.5mm)を穿刺します。腫瘍の大きさに応じて針を複数本穿刺します。高圧アルゴンガスを使用し、ジュール・トムソン効果によって針の先端に凍結域を作り、腫瘍を凍結します。腫瘍に対して凍結-解凍のサイクルを繰り返すことにより腫瘍壊死を得ます。

文献での再発率は約3~14%ですが、再発しても患者さんの状態に問題がなければ再治療が可能です。

治療適応

外科的手術適応のない小径腎癌で、かつ無治療経過観察(active surveillance)の選択肢を提示した上で同意を得た患者さんが対象となります。当科では原則4cm以下(T1a)の腎癌を治療対象としています。外科的手術適応のない患者さんの要因としては高齢、心血管系疾患、慢性肺疾患、手術既往、多発腎癌の可能性のあるvon Hippel-Lindau病、片腎などが挙げられます。また、外科的手術と比較すると術後の腎機能が保たれや

すいため、腎機能の低下した患者さんでも、治療適応となる可能性があります。当院では泌尿器科や腎・高血圧・内分泌科などの他診療科と連携して患者さんの状態を評価しています。

入院期間

入院期間は約1週間が目安です。抗凝固薬や抗血小板薬を内服している患者さんの場合は薬剤の種類に応じて休薬期間を設けてヘパリン点滴を行うため、入院期間が長くなります。

治療までの流れ

ご紹介いただいた際には、CTやMRIなどの画像や採血のデータを評価して治療適応かどうか判断いたします。当院では、安全に治療を行うため、事前に必ず泌尿器科を受診していただくようになっています。

当科外来では、凍結療法の内容や合併症のリスクなどについて詳しく説明いたします。治療前の評価に必要な検査を追加して行います。腎機能が低い患者さんの場合には腎・高血圧・内分泌科に紹介し、治療可能か相談いたします。

入院中の流れ

凍結療法に先立ち、前日に腎腫瘍に対して経カテーテル的塞栓術を追加する場合があります。また、当科では凍結療法の前に、CTガイド下に腎腫瘍に対して生検術を施行しています。

凍結療法の後は、数時間安静にしてくださいが必要ですが、問題がなければ当日から飲水や食事摂取も可能で、翌日からは歩行も可能です。

画像や採血のデータを評価して数日経過を見ます。退院後も当科で画像による評価と診察を外来で行います。

最後に

適応となる患者さんがいらっしゃいましたら、下記までご連絡いただけますでしょうか。ご不明な点はお問い合わせください。地域医療連携センターを介してご紹介頂いても結構です。



図1 凍結療法装置 CryoHit (GALIL MEDICAL社製)

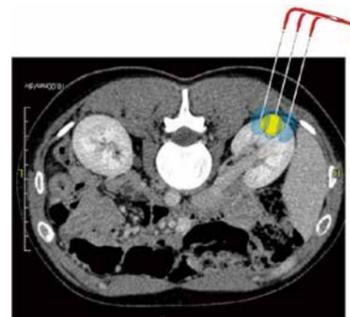


図2 腎癌凍結療法のイメージ図
黄色の球：腎癌、青の球：針の周りにできる氷



図3 当院での症例。4本の凍結針を穿刺して、凍結療法を行いました。皮膚が凍傷にならないように、温めた生理食塩水をかけながら凍結を行います。

お問合せ 放射線診断科外来 022-717-7732 せいじかずまさ さとうともみ
地域医療連携センター 022-717-7131 清治和将、佐藤友美

Department



歯科部門地域連携懇談会を開催しました

11月14日(月)スーパームーンの夜に、第1回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会が歯学研究科大会議室で開催されました。宮城県歯科医師会と仙台歯科医師会にご共催をいただき本院歯科部門と歯学研究科が主催し、110名を超える大学と地域の歯科医師の先生方にご参加いただき盛会となりました。参加いただきました歯科医師の皆様には御礼を申し上げます。

本会は、地域医療を担う先生方と本院が、更に密接な病診連携体制を構築したいとの思いから、病診連携の推進のための新たな取り組みとして開催いたしました。私と佐々木啓一歯学研究科長のご挨拶、さらに宮城県歯科医

師会の細谷憲二会長からご挨拶をいただきました。本院との連携の方法や特徴ある診療について、歯科インプラントセンター、顎口腔外科、保存系診療科、補綴系診療科、小児歯科、矯正歯科から説明を行いましたので、患者さんの紹介や逆紹介、治療内容に関する情報交換も、より深く円滑に進める事もできるようになりました。

会場では、地域歯科医師の先生方と、実際に地域連携の中心となる医局長クラスの大学歯科医師とが互いに交流を深めることができましたので、顔の見える密接な地域の連携体

Dental Department

制を構築する新しい取り組みになったと思います。本院歯科部門では、地域医療連携体制を更に推進していくために、本会を大きく展開させ、今後の地域の歯科医療・保健の更なる発展に努めてまいりますので、皆様のご協力、ご参画を宜しく申し上げます。



行事食について

栄養管理室では「患者さん一人ひとりに目をむけた、やさしさの伝わる栄養管理を目指します」という理念の下、個々の患者さんの性別や年齢はもちろん、患者さんの状態(摂取能力・病状・病態)に合わせた食事を提供しております。1回に提供する食事は900食近く(1日約2700食)に上りますが、個々の患者さんに合わせたきめ細やかな食事対応を行うと共に、行事食や特別メニュー等を取り入れ、患者さんのQOL向上や、退院後の食生活の改善にもつながるようなサポートができるよう努めております。

今回は、当院で提供する行事食についてご紹介します。季節の行事やお祝いの日など特別なときに食する行事食には、家族の幸せや健康を願う意味が込められています。入院中の患者さんにも季節を感じていただ

けるような食材・料理を献立に取り入れ、食事を通して日本の伝統や食文化、四季の変化も感じていただけるようお正月、節分、ひな祭り、彼岸、子供の日、お盆、月見、ハロウィン、クリスマスなど、年に20回ほどお出ししています。また、院内学級では校外学習の際にお弁当を準備します。お弁当をあけるときのワクワクした気持ちを想像し、毎回好評のエビフライやその時に話題の料理を入れるなど心を込めて準備しています。これらの献立は、週に1回行っている献立検討会の中で管理栄養士・調理師が集まり試作した料理の確認を行い、毎回美味しいことはもちろん見た目の美しさや食べた満足感を心がけ、提供後

に頂く感想から次回のメニュー立案時の参考にするなどしています。「入院生活の中でも季節を感じられた」「美味しかった。食欲がなかったが食べられた。」などの感想を頂き、栄養満点の料理は患者さんに元気や季節をお届けする役割もあるのではないかと考えます。



2016年 院内学級

Facility